

三陸復興国立公園 ステップアッププログラム 2025

自然の恵みと脅威、人と自然との共生により
育まれてきた暮らしと文化が感じられる国立公園



2023年（令和5年）12月策定

三陸復興国立公園満喫プロジェクト推進協議会

【目 次】

はじめに	1
1. 現状分析	2
1. 1 三陸復興国立公園の概要	2
1. 2 三陸復興国立公園を訪れる利用者	4
(1) 公園全体の利用者の概況	4
(2) 訪日外国人利用者の概況	4
(3) 国内利用者の概況	5
(4) アクセス	6
(5) 三陸復興国立公園の利用促進に向けた課題	8
2. コンセプトと利用推進の方向性	11
2. 1 コンセプト	11
2. 2 利用推進の方向性（ビジョン）	11
3. 目標と指標	12
3. 1 ターゲット	12
(1) 訪日外国人利用者	12
(2) 国内利用者	12
3. 2 目標	13
3. 3 取組の方針	14
3. 4 指標	15
4. プロジェクトの実施	16
4. 1 国立公園全域および複数の地域をまたぐ取組	16
4. 2 北部地域（青森県エリア）の取組	17
(1) 北部地域の概要	17
(2) 北部地域における取組	17
4. 3 中部地域（岩手県エリア）の取組	18
(1) 中部地域の概要	18
(2) 中部地域における取組	18
4. 4 南部地域（宮城県エリア）の取組	19
(1) 南部地域の概要	19
(2) 南部地域における取組	19
5. 効果検証	20
5. 1 進捗確認と評価	20
(1) 取組の実施状況の確認	20
(2) 目標の達成状況に係る評価	20
5. 2 プログラムの改訂	20
別紙1 実施・検討する取組の一覧	21
別紙2 三陸復興国立公園満喫プロジェクト推進協議会設置要綱	25

はじめに

環境省では「明日の日本を支える観光ビジョン」（2016年（平成28年）3月30日。明日の日本を支える観光ビジョン構想会議）に基づき、日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてのブランド化を図ることを目標に8+3公園を対象として「国立公園満喫プロジェクト」を推進し、2021年度（令和3年度）以降は、ウィズコロナ・ポストコロナの時代への対応および全34国立公園の底上げや水平展開等の新たな取組を進めています。

三陸復興国立公園は、環境省「三陸復興国立公園の創設を核としたグリーン復興のビジョン」（2012年（平成24年）5月7日策定）において東日本大震災からの復興と地域振興に資する国立公園として2013年（平成25年）5月24日に創設され、今年で10周年を迎えました。本公園は、豪壮な大断崖やリアス海岸の風光明媚な景観やその環境に適応した多様な生態系と海産物等の豊かさに恵まれ、災害からの復興の姿を伝えるという他の国立公園にはない特異性を兼ね備えています。

震災から12年が経過し、八戸市と仙台市を結ぶ三陸沿岸道路の全線開通や防潮堤等の整備が概ね完了に向かい、各地の震災伝承施設が増えて行くなど、復興のステージがハードからソフトへ移行していますが、その矢先に新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、観光産業をはじめとした地域経済の衰退が進んでいます。今後、このような社会や観光情勢の目まぐるしい変化に対応し、一層の公園利用を進め地域経済への貢献を図るためには、国立公園満喫プロジェクトにおいて公園全体のビジョンや目標を設定し、その達成に向けて多様な関係主体が連携して取組むことが求められています。

本「三陸復興国立公園ステップアッププログラム2025」（以下、「本プログラム」という。）は、こうした時勢の中、2022年（令和4年）11月に設立した三陸復興国立公園満喫プロジェクト推進協議会（以下、「本協議会」という。）やその部会等において、約1年間に渡る数多くの協議や検討を経て作成されたものであり、本公園の持つ魅力や守るべき価値を磨き直し、将来世代に引き継ぐとともに、上質な自然体験やサービスを提供することで国内外を問わず訪問者を惹きつけ満足させる国立公園とすることを目的として策定した本公園全域における行動計画です。

1. 現状分析

1.1 三陸復興国立公園の概要

三陸復興国立公園は、青森県八戸市蕪島から青森県三戸郡階上町までの海岸線と同町内陸部に位置する階上岳からなる種差海岸階上岳地域、および岩手県久慈市から宮城県石巻市牡鹿半島までの海岸線沿いに位置する三陸海岸地域からなり、公園区域が指定されていない岩手県洋野町も含めた南北の直線延長は約 250km もの広大な公園です。

このうち、岩手県下閉伊郡普代村から岩手県釜石市までの太平洋に面した海岸線を中心とした地域が、1955 年（昭和 30 年）5 月 2 日に陸中海岸国立公園として指定されました。1964 年（昭和 39 年）6 月 1 日には、釜石市から気仙沼市までの南側が拡張され、1971 年（昭和 46 年）1 月 22 日には岩手県久慈市から普代村までの北側の拡張とともに 3 箇所の中公園地区（現海域公園地区）が指定されました。

2011 年（平成 23 年）3 月 11 日に東北地方太平洋沖地震が発生し、環境省は、東日本大震災からの復興に貢献するため、三陸復興国立公園の創設を核としたグリーン復興のビジョン（2012 年（平成 24 年）5 月）を公表しました。同ビジョンでは、三陸復興国立公園の創設（自然公園の再編成）のほか、里山・里海フィールドミュージアムと施設整備、地域の宝を活かした自然を深く楽しむ旅（復興エコツーリズム）、南北につなぎ交流を深める道（東北海岸トレイル^{※1}）、森・里・川・海 のつながりの再生、持続可能な社会を担う人づくり（ESD）の推進、地震・津波による自然環境の影響の把握（自然環境モニタリング）といった具体的なプロジェクトの実施を通じて、森・里・川・海 のつながりにより育まれてきた自然環境と地域の暮らしを後世に伝え、自然の恵みと脅威を学びつつ、それらを活用しながら復興することを提唱しています。

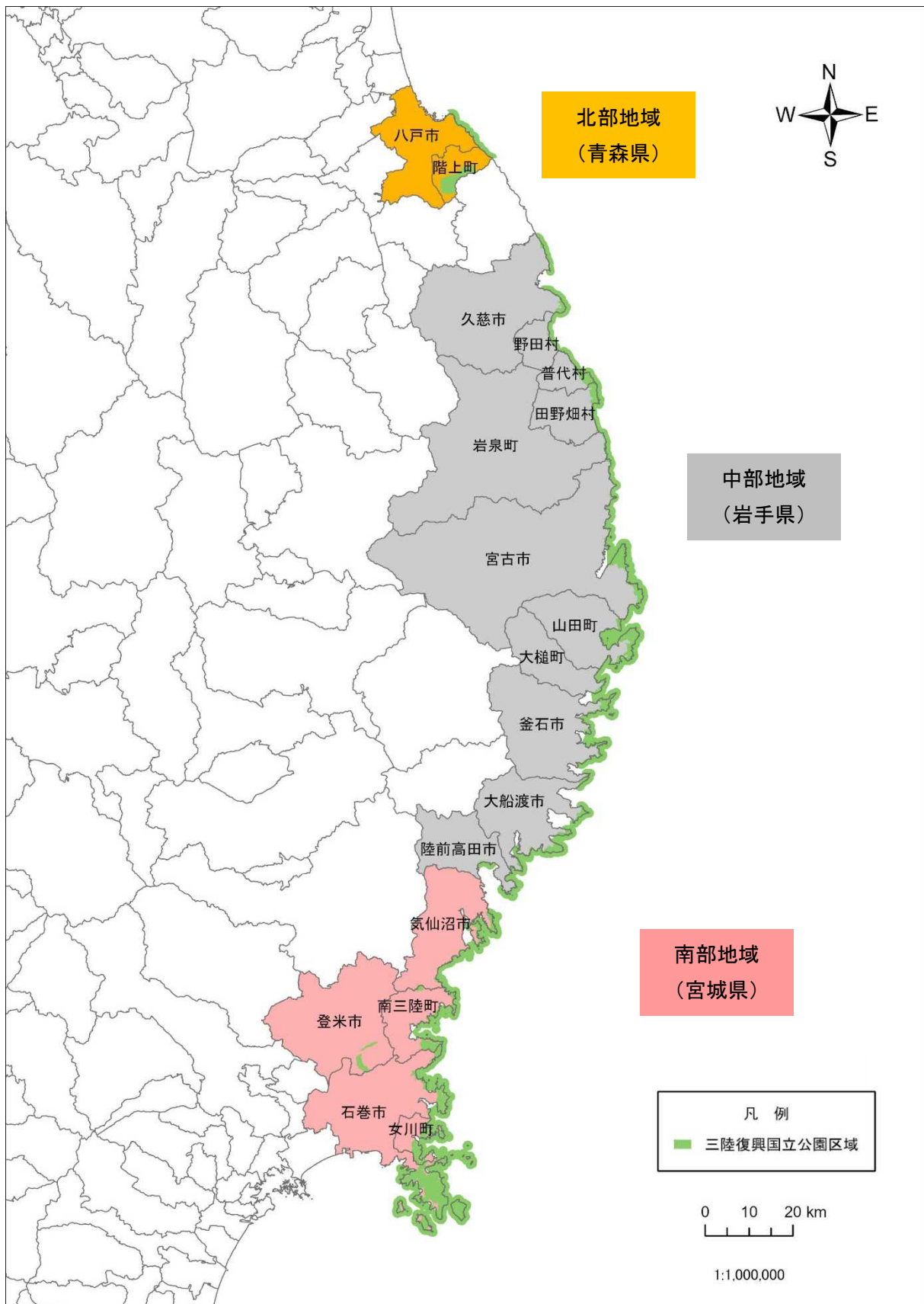
三陸復興国立公園の創設にあたっては、青森県八戸市の蕪島から宮城県石巻市・女川町の牡鹿半島までおよびその周辺の自然公園を段階的に再編成することとし、2013 年（平成 25 年）5 月 24 日に種差海岸階上岳県立自然公園を陸中海岸国立公園に編入し、三陸復興国立公園として指定しました。2015 年（平成 27 年）3 月 31 日には南三陸金華山国定公園を編入しています。

北部は「海のアλπス」とも称される豪壮な大断崖、南部は入り組んだ地形が優美なリアス海岸が続きます。海岸にはウミネコやオオミズナギドリなどの海鳥の繁殖地があります。また、海岸の独特の環境に適応した多様な海岸植物が生育しており、野生生物を間近に観察することもできます。浅海域にはアマモ場や海藻藻場が形成され、海洋の生物多様性を支える場にもなっています。

世界三大漁場の一つである三陸沖に面して、八戸・宮古・釜石・大船渡・気仙沼・石巻など日本有数の水揚げを誇る漁港を有しており、新鮮な海の幸を味わうことができるのも魅力です。災害からの復興を目的のひとつとした、国内では前例のない国立公園であり、津波伝承や防災教育を目的とした人々も全国や世界各地から訪れています。

※1：のちの「東北太平洋岸自然歩道」（通称：みちのく潮風トレイル）

■公園区域図

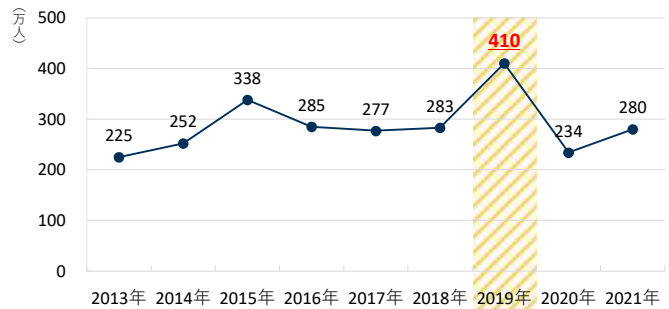


※図中の北部地域・中部地域・南部地域は、本プログラムにおけるエリア分け

1.2 三陸復興国立公園を訪れる利用者

(1) 公園全体の利用者の概況

本公園の年間利用者数は2013年（平成25年）の公園再編以降概ね順調に増加し、2019年（令和元年）にピークの410万人を記録しました。新型コロナウイルス感染症の影響により一時期急激に減少した後は、マイクロツーリズムやアウトドアブームによって少しずつ増加に転じています。

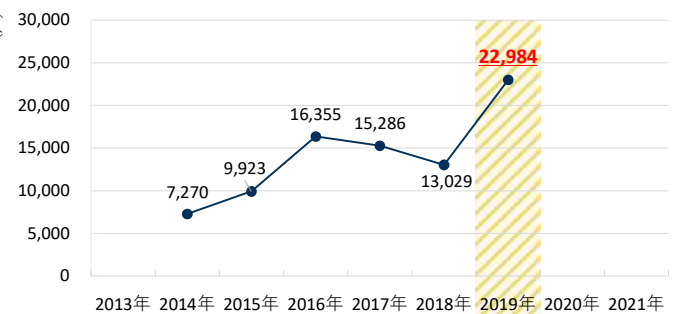


国立公園利用者数

出典：環境省国立公園利用者数より作成

(2) 訪日外国人利用者の概況

新型コロナウイルス感染症拡大以前には、青森・岩手・宮城の3県では、台湾・中国・韓国等のアジア市場を主要なターゲットとし、仙台空港をはじめとした地方空港においても、それら国々とを結ぶ直行空路が設定されていました。同感染症の影響が拡大した直後からこれら空路の運休が相次ぎましたが、感染拡大が収束し、各空港とも空路再開の動きが見られます。

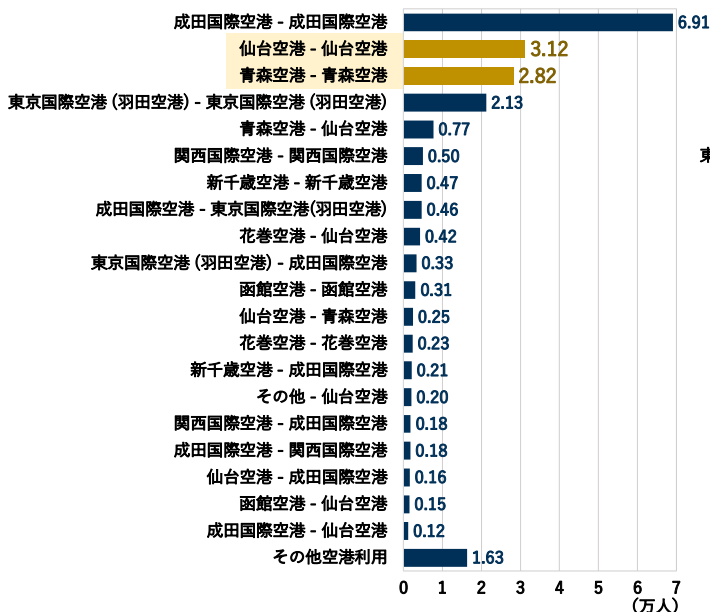


国立公園別訪日外国人利用者数推計値

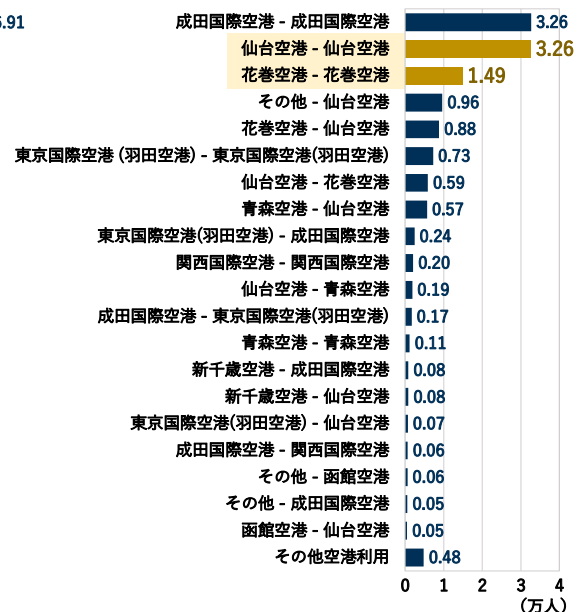
※2013年は、「訪日外国人消費動向調査」の訪問地選択肢コードに該当する地点が無かったため、推計対象外。2020年～2021年はデータ取得不能。

出典：環境省国立公園別訪日外国人利用者数推計値より作成

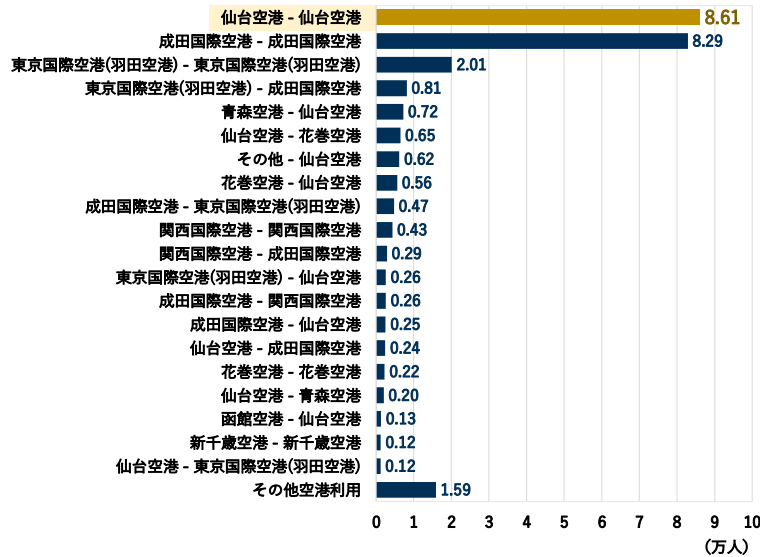
【青森県】



【岩手県】



【宮城県】

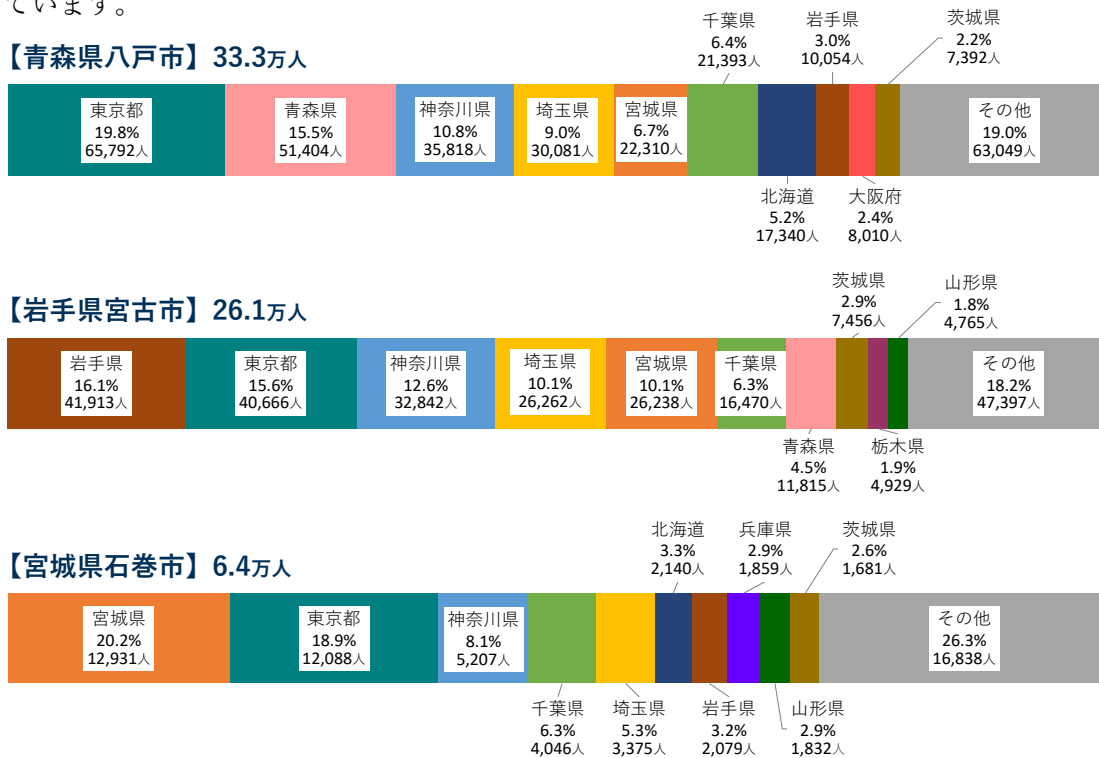


外国人入出国空港利用者数（2019年）

出典：RESAS 内、国土交通省「FF-Data（訪日外国人流動データ）」より作成

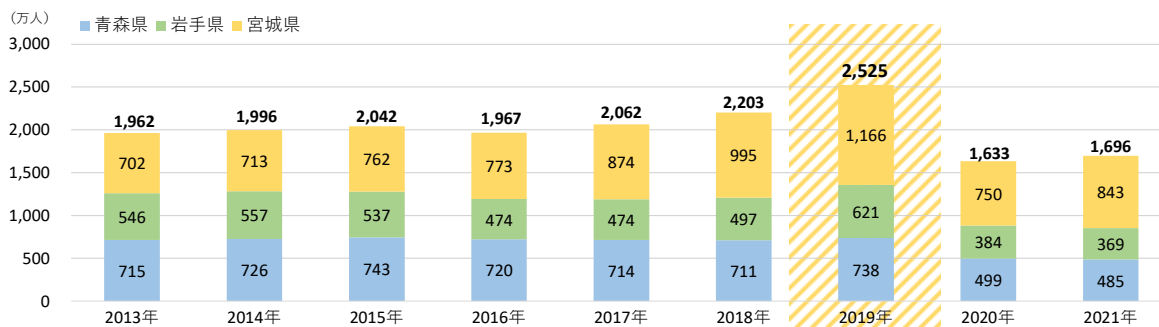
（3）国内利用者の概況

首都圏から新幹線等を利用し、仙台市・盛岡市・八戸市等をハブとして来訪する旅行者が最も多く、次いで本公園の区域でもある、青森県・岩手県・宮城県を出発地として自県や隣県を訪れる近隣旅行（マイクロツーリズム）が多くみられます。また、新型コロナウイルス感染症の拡大後は、アウトドアブームによる野営場やトレイル等の利用者が増加しているほか、ワーケーション等の新たな利用の形がみられます。そのほか、他の地域に比べ優位性のある震災伝承等のコンテンツを活用した復興ツーリズムの推進および教育旅行や企業研修等の利用が広がっています。



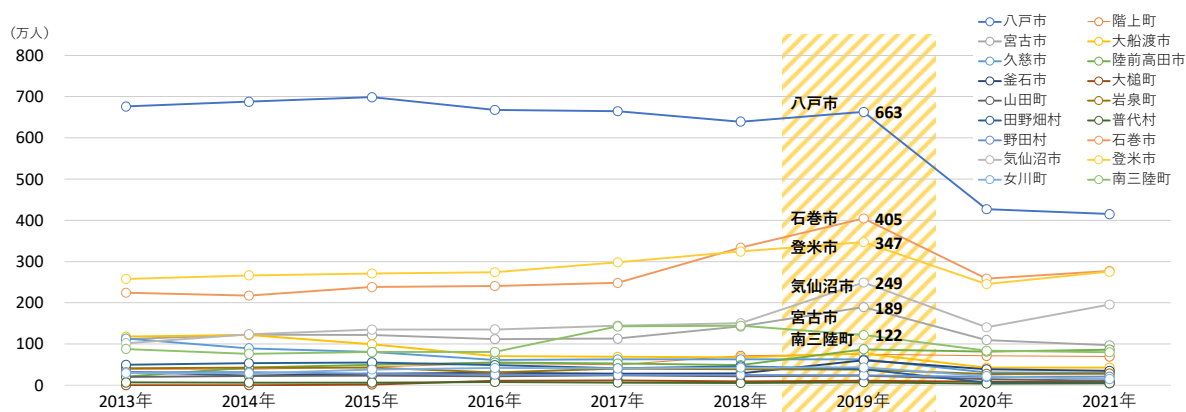
日本人旅行者延べ宿泊者数（2022年）

出典：RESAS 内、観光予測プラットフォーム推進協議会 観光予測プラットフォーム（2022年）をもとに作成



対象区域の観光入込数の推移（対象区域:三陸復興国立公園が含まれる市町村）

出典：青森県、岩手県、宮城県観光統計より作成



対象区域の市町村別観光入込客数の推移

出典：青森県、岩手県、宮城県観光統計より作成

(4) アクセス

三陸復興国立公園区域へのアクセスの状況については、訪日する外国人や全国からの来訪者が利用する広域交通拠点となる最寄りの空港として、仙台空港・花巻空港・青森空港・三沢空港があります。主な新幹線駅は仙台駅・盛岡駅・八戸駅のほか、その間には7駅があります。

航路は、八戸港が苫小牧港と、仙台港が苫小牧港と名古屋港の間で旅客フェリーを運行しています。なお、宮古港と室蘭港を結ぶ航路は現在休止しています。

これらの広域交通拠点から公園区域の各地域へのアクセスに用いられる鉄道やバス等の公共交通と幹線道路は、沿岸部を南北に縦貫するルートと内陸部から東西に横断するルートによってラダー状のネットワークが形成されています。

鉄道は、八戸駅から盛駅（大船渡市）までをJR八戸線と三陸鉄道が結び、盛駅から柳津駅（登米市）までをBRT^{*1}が結んで南北に縦貫し、柳津駅は石巻駅を経由して女川駅とJR石巻線で結ばれています。東西方向には、盛岡駅と宮古駅をJR山田線が、花巻駅と釜石駅をJR釜石線が、一ノ関駅と気仙沼駅をJR大船渡線が結んでいます。

道路は、三陸沿岸道路と国道45号が対象区域を南北に縦貫しています。東西方向には、釜石自動車道や宮古盛岡横断道路、みやぎ県北高速幹線道路、その他国道などの幹線道路が内陸部の東北自動車道等と結びつけています。

(5) 三陸復興国立公園の利用促進に向けた課題

現状の利用状況および本協議会の構成員アンケート結果から、三陸復興国立公園の利用促進に向けた課題について以下に整理します。

課題1 ナショナルパークとしての「三陸」のリブランディング

三陸復興国立公園は、世界共通の言語である「ナショナルパーク」としての存在を活かしきれておらず、関係機関からも「知名度の向上」を求める声が聞こえます。日本の国立公園の中でも、直線距離で約 250km におよぶ海岸線を有する特異さや、震災の経験や三陸ジオパークおよびみちのく潮風トレイルの存在を活かしつつ、一体的なブランドを確立し、上質な旅の提供や発信をしていくことが必要です。

課題2 マーケティングに基づく戦略的プロモーションの展開

本公園区域やそれを含む市町村エリアでは、以前から関係機関により利用者数や観光入込客数等の量的な利用状況を把握してきました。利用者の満足度や認知度・滞在時間・消費額等の質的な状況については、近年ようやく各地のDMOにおいて実態の把握が進んでいます。

プロモーションについては、三陸復興国立公園協会が中心となり公園全域のPRや旅行会社等をターゲットにした商品造成事業に取り組んでいるほか、関係機関が個別に効果的な発信媒体や発信方法を試行錯誤しながら行っていますが、三陸全体のブランド化に直接結びつくような取組までには至っていません。

上質な旅を提供するためには、質的な状況把握やポストコロナの観光ニーズも含めた正確なマーケティングに基づいた情報発信や、一体的・戦略的なプロモーションを行うことが必要です。

課題3 地域資源の魅力的な観光資源化

本公園区域には、わが国最大級の海食崖とリアス海岸が連続した傑出した自然海岸をはじめ希少な地域資源が数多くあり、みちのく潮風トレイルや漁船クルーズ等のコンテンツを通して楽しめる環境や、アドベンチャーツーリズムやヘルスツーリズム、ガストロノミーツーリズム等の取組も各地で見られます。しかし、来訪者の多くは代表的な景勝ポイントを従来からの物見遊山的な観光スタイルで訪ねており、地域資源を十分に活かしきれていない状況です。

公園区域とそれを含む市町村エリアには、自然に育まれた漁村・農村文化や伝統芸能、食や物産、そしてそこに生きる人々等の優れた地域資源があり、それら地域資源を魅力的な観光資源に磨き上げて活用することが必要です。

課題4 効果の発揮・波及による地域の活性化

本公園区域の利用者数および公園区域を含む市町村エリアの観光入込客数は、新型コロナウイルス感染症拡大以降はその影響により厳しい状況にありましたが、同感染症の収束以降は徐々に回復の傾向が見られます。

来訪者の増加は地域に経済効果や社会効果をもたらしていますが、関係機関からは「地域内消費額が小さく、経済効果を実感できない」とする声が聞こえます。その背景として、未だに従来からの周遊型観光が多いことや宿泊施設が少ないことなど滞在性が弱いことや自然を相手にするアクティビティの悪天候による催行率の低さなどの要因があります。

本公園区域の来訪者による地域への効果を高めるためには、本公園の真の価値を伝え、その利用を通じて満足度の高い体験を提供することで、一定の時間と費用をかけて自然環境や地域文化に触れるといった滞在型利用を促進するとともに、関係機関が連携し合って収益を上げ、地域に波及する仕組みを構築する必要があります。

課題5 インバウンドの誘客・受入れ体制の強化

本公園区域の訪日外国人利用者数は2019年（令和元年）に2.3万人まで増加しましたが、同じ海岸の国立公園である伊勢志摩国立公園の7.1万人や山陰海岸国立公園の4.6万人と比較しても多いとは言い難い状況であり、いわゆるゴールデンルートやしまなみ海道など、訪日外国人に人気の高いルートに比べて認知度は低い状況です。

訪日外国人に上質な観光サービスを提供し、相応の対価を得て地域への経済効果を高めるためには、海外へのプロモーションのほか、情報発信ツールや案内板等の多言語化・キャッシュレス化・Wi-Fi等通信環境の充実・トイレの洋式化・インバウンド対応人材の育成など、受入れ環境の整備を進める必要があります。

課題6 移動の利便性と楽しみ方

東日本大震災後に整備が進んだ三陸沿岸道路や釜石自動車道、宮古盛岡横断道路などの道路整備により自家用車やレンタカー等によるアクセス性は向上しました。一方、公共交通機関の利用においては、公園区域の北のターミナルである八戸駅や南のターミナルである石巻駅までは、首都圏や仙台圏からのアクセスが良い反面、市町村の中心駅等から観光拠点までの二次交通が不便な状況です。

直線距離で約250kmの海岸線を有する本公園では主要な観光拠点が沿岸部に細長く点在しており、利用者の利便性向上や地域全体に観光の効果を波及させるためには、各観光拠点をつなぐ公共交通や観光ポイントまでの二次交通の改善を検討するとともに、トレイルや鉄道・バス・BRTなど多様な移動手段のアクティビティ化や組合せによる商品化を図り、移動時間の長さや不便さを楽しみや感動に換えて味わう、スローな旅の提案が求められます。

課題7 自然環境・景観の保全

自然環境や景観の保全については、住民やボランティア・行政などにより清掃や保護活動が実施されていますが、それら活動の担い手不足や高齢化、ゴミの不法投棄などの問題の深刻さが関係機関から挙がっています。

持続可能な形で自然環境の保護と利用の好循環を創出するにあたっては、施設の利用料やアクティビティの売上金等を環境保護に還元する仕組みづくりや保護活動等への公園利用者の参画および利用ルール等の周知を進める必要があります。また、樹木の繁茂により展望地等における眺望の悪化が進んでいることから、改善に向けた関係者間による取組が必要です。

課題8 公園全域および地域・主体間の連携の強化

本公園区域では、東日本大震災の被災状況や復興のスピードに関する地域差も一因となり、これまでは市町村や県および個別の事業主体を基本単位として、それぞれがコンテンツの造成・誘客プロモーション・イベント・自然保護や保全の活動等の取組を行ってきました。

本公園を訪れる利用者にとっては、それら個別単位の地域が旅の目的地となることは少なく、本公園や公園区域を含む広範囲なエリアを旅の目的地として捉えることから、今後においては、利用促進のための広域的な取組や課題解決の方策・ノウハウの共有・具体的な事業での連携等、公園全体や近隣地域および多様な主体間が一体となった効果的な連携が必要です。

2. コンセプトと利用推進の方向性

2.1 コンセプト

三陸復興国立公園の保全と適正な利用の推進を図るうえでのコンセプト（テーマ）を、以下のとおり設定します。

自然の恵みと脅威、人と自然との共生により育まれてきた暮らしと文化が感じられる国立公園

【コンセプトの解説】

三陸復興国立公園の南北の延長は約 250km。北部は「海のアλπス」とも称される豪大な大断崖、南部は入り組んだ地形が優美なリアス海岸が見られます。海岸には貴重な海鳥の繁殖地や多様な海岸植物が生育し、浅海域には海藻の藻場が形成されているなど、海洋の生物多様性を支える場にもなっています。

八戸・宮古・釜石・大船渡・気仙沼・石巻など日本有数の水揚げを誇る漁港を有しており、新鮮な海の幸を味わうことができるほか、海岸の景勝地巡り、遊覧船や漁船クルーズ、シーカヤックや SUP 体験など海辺の楽しみ方も多種多様です。

ここで暮らす人々は、有史以前より自然の恵みと津波の脅威に向き合い生きてきました。本公園は、東日本大震災からの復興を目的のひとつとした国内では前例のない国立公園であり、その伝承施設や住民との交流から防災や復興していく道のを学ぶ人々が全国から訪れています。

2.2 利用推進の方向性(ビジョン)

三陸復興国立公園満喫プロジェクトにおいて目指す、本公園の利用推進の方向性(ビジョン)を以下に示します。

- 南北に長い海岸線という国立公園の特徴を生かす
- 交通手段、移動の楽しみ方の多様性を生かす
- 南北を「一本の旅路」にすることで、各地域に潜む魅力を引き出す
- 地域間の連携（つながり）を強くする

【ビジョンの解説】

三陸復興国立公園の特徴である長い海岸線の各地には、箱庭のような小さな魅力や美しさが点在しています。本公園を訪れる旅行者に、トレイル歩きやサイクリング、鉄道やバスそして連絡船などの多様な移動手段で、ゆっくりのんびりとスローな旅を楽しみ、各地の魅力や味わいを体験できる旅が提供できるように、地域住民を含めた関係者間の連携を深めることや、旅の主役となる旅行者と住民とが、心の絆でつながっていくことをイメージしています。

3. 目標と指標

3.1 ターゲット

新型コロナウイルス感染症収束後は、旅行動機の高まりが訪日外国人利用者と国内利用者の双方に差が無く見られることから、ともにターゲットに設定し誘客していきます。また、近年は双方とも、団体やパッケージツアーから個人やファミリー単位の旅行形態へのシフトが顕著に見られることから、それらの利用者層を重要なターゲットと位置づけた取組を進めていきます。

(1) 訪日外国人利用者

新型コロナウイルス感染症が拡大する以前、青森・岩手・宮城の3県では、台湾・中国・韓国等のアジア市場を主要なターゲットとし、仙台空港をはじめとした地方空港においても、それら国々とを結ぶ直行空路が設定されていました。新型コロナウイルス感染症の影響が拡大した直後からこれら空路の運休が相次ぎましたが、感染拡大が収束し、各空港とも空路再開の動きが見られています。

しかしながら中国市場においては、本年8月に訪日団体旅行が解禁されて間もなく、現状では不透明な部分もあることから、現時点では特定の国に偏ったターゲットの設定はせず、当面はアフターコロナの動向注視や旅行者ニーズについてのきめ細やかな分析を行い、今後において個別ターゲットの設定やプロモーション戦略を検討することとします。



(2) 国内利用者

首都圏から新幹線等を利用し、仙台市・盛岡市・八戸市等をハブとして来訪する旅行者が最も多く、次いで本公園の区域でもある、青森県・岩手県・宮城県を出発地として自県や隣県を訪れる近隣旅行（マイクロツーリズム）が多いことから、引き続きその出発地や旅行者のニーズを分析した誘客活動を展開するとともに、ワーケーション等の新たな利用の形やアウトドアブームの追い風がある中、それらの需要を逃さない受入れ体制を整えていきます。

そのほか、他の地域に比べ優位性のある震災伝承等のコンテンツを活用した復興ツーリズムを推進し、教育旅行や企業研修等の誘客を進めます。



3.2 目標

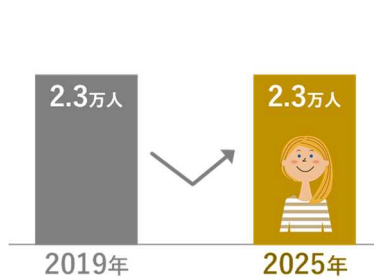
本プログラムの目標は、以下のとおりとします。

【数値目標】利用者数の回復

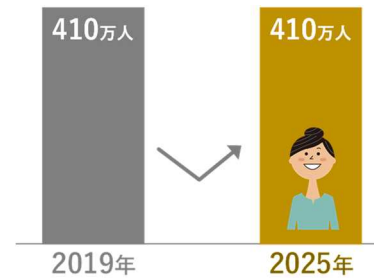
新型コロナウイルス感染症の影響が収束し、インバウンドについては、いわゆるゴールデンルートを中心としたエリアにおいて順調な回復基調がみられるものの、本公園域を含む東北エリアへの回遊が進んでいるとは言い難いことから、本計画においては、2025年までに同感染症拡大の影響前である2019年の本公園利用者数レベルへの回復を目指します。本公園の利用者の大半を占める国内利用者の誘客についても、三陸復興国立公園改編後に最も利用者数の多かった2019年のレベルへの回復を目指します。

①三陸復興国立公園における訪日外国人利用者数

②三陸復興国立公園における国内利用者数



新型コロナウイルス感染症影響前のレベルまで
回復を目指す



公園改編後の最大値のレベルまで
回復を目指す

【質的目標】上質なツーリズムの提供

「今だけ」「ここだけ」しか体験できないコンテンツの造成や既存コンテンツを磨き上げることで、地域資源の魅力を最大限引き出すとともに、南北250kmに延びる長大な公園エリアをつなげるストーリーを提案するなど、質の高いツーリズムの実現を目指します。

3.3 取組の方針

目標を達成するための取組の方針を、以下のとおり設定します。

1 エリアをつなぐストーリーの提案

みちのく潮風トレイルや三陸ジオパーク、鉄道・バス・BRT等の公共交通機関、復興の道路、観光航路等の多様な移動手段をアクティビティ（楽しみ）として活用し、南北250kmに延びる長大な公園エリアをつなげるストーリーを提案することで、各地に点在する地域資源の魅力を最大限引き出します。

2 ストーリーを彩るコンテンツの磨き上げ

「今だけ」「ここだけ」しか体験できないコンテンツの造成や既存コンテンツの磨き上げにより、質の高いツーリズムの実現を目指します。

3 多様な連携による魅力づくりや誘客プロモーションの実施

三陸復興国立公園内の行政機関や観光関係者のみならず、住民組織とも連携して、三陸の魅力を味わうことができるコンテンツや商品開発を進め、来訪動機を高める情報発信を進めます。

4 快適性や利便性の向上

障がいの有無や言語の違い等を問わず誰もが快適に利用できるユニバーサルデザイン化、古い施設や設備の改修、通景の改善、携帯電波不感地帯の解消等、国立公園にふさわしい上質な自然景観や街なみの形成を図るとともに、利用者の安全の確保に努めます。

5 ウィズコロナ時代の多様なニーズに応じたサービスの提供

感染症対策、アウトドア志向の増加、ワーケーションやグランピング等の新たなレジャー形態、キャッシュレス決済等の多様なニーズに応じたサービスの提供を図ります。

6 自然と調和し地元に還元される「持続可能な観光」の実現

三陸復興国立公園が有する魅力豊かな自然の保全と活用の両立を図るため、施設やガイド等の利用料の一部を保全活動に還元するなど、利用者負担による保全の仕組みづくりや、地域経済や人々の生活文化の継承等にも配慮した「持続可能な観光（サステナブルツーリズム）」を推進します。

3.4 指標

目標の達成度をはかる指標は以下とします。なお、必要に応じて追加的な指標を検討し設定します。

【数値目標に対応する指標】

指標	検証方法	実施単位
国立公園別訪日外国人利用者数推計値	環境省が取りまとめする「自然公園等利用者数調」および推計データの結果のうち、三陸復興国立公園に係る結果を用いる。	公園全域
国立公園利用者数		
国立公園集団施設地区等利用者数		
国立公園内ビジターセンター等利用者数		
観光入込客数	「観光入込客統計に関する共通基準（平成21年12月策定。国土交通省 観光庁）」に基づき、青森県、岩手県、宮城県が実施する観光統計調査の結果のうち、三陸復興国立公園の区域が含まれる市町村の観光入込客数を用いる。	
外国人観光入込客数 （但し、岩手県のみ公表）		

【質的目標に対応する指標】

指標	検証方法	実施単位
利用者満足度	消費単価や体験の質の高さ・深さを掛け合わせた「体積」の向上度を測るための指標として、国立公園満喫プロジェクトにおいて環境省で実施する全国的な調査の結果のうち、三陸復興国立公園に係る結果を用いる。	公園全域
一人あたり消費額		
一人あたり滞在日数		
リピーター率		

4. プロジェクトの実施

4.1 国立公園全域および複数の地域をまたぐ取組

先述の現状分析および取組方針を踏まえ、国立公園全域および複数の地域をまたぐ優先的・重点的に行うべき取組を以下に記載します。個別の取組は別紙1に示します。

《優先的・重点的な取組》

① エリアをつなぐストーリーの提案

・本公園の特徴的な魅力である海岸線の迫力や自然の豊かさを洋上から堪能し感動を深めるため、各地の遊覧観光船・漁船クルーズ・離島連絡船等を巡る旅のモデルコースやツールの造成を行います。

② コンテンツの磨き上げ

・本公園のキラークンテンツである「みちのく潮風トレイル」のブランディング化と国内外へ向けた広報戦略の検討を行います。

③ 上質な自然景観や街なみの形成

・展望地等における眺望確保のため、関係者間による現状把握や現行制度を踏まえたルールづくりによる通景改善計画の策定を検討します。



観光遊覧船・漁船クルーズ



みちのく潮風トレイル



眺望の利く展望地



みちのく潮風トレイル ルートマップ

4.2 北部地域（青森県エリア）の取組

北部地域の概要および優先的・重点的に行うべき取組を以下に記載します。個別の取組は別紙1に示します。

(1) 北部地域の概要

【概要】

種差海岸階上岳地域は、三陸海岸北部から続く海成段丘の北端に当たる地域です。海岸線は、岩礁海岸、砂浜海岸、海食海岸等の多様な地形が入り交じり、海岸植生、シバ草地、クロマツ林等の植生とあいまって、変化に富む海岸風景が形成されるとともに、ウミネコ等の海鳥類の重要な生息地にもなっています。また、階上岳は北上山地の最北の山であり、天然のヤマツツジが群生しているほか、山頂からは、太平洋、八甲田連峰、北上山地の山々等が一望できます。



大須賀海岸



種差海岸

【利用】

利用については、公園区域に平行して走る三陸沿岸道路や国道45号およびJR八戸線等を介しての景観観賞や自然探勝が通年的に見られます。夏期には、海岸各所に整備された野営場でのキャンプ利用や海水浴利用が多いほか、海釣りやカヤックなどのマリンスポーツが行われています。また、新鮮な魚介類や海藻、いちご煮やせんべい汁といった郷土料理等の味覚探訪を目的とした利用も多く見られます。

階上岳エリアにおいては、登山や自然観察等を目的とした利用が多く、日本ジオパークに認定された三陸ジオパークは、蕪島や大須賀海岸の鳴砂等のサイト（見どころ）が点在し、観光や学習に活用されています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的にインバウンドは皆無となり、国内旅行の落ち込みもありましたが、みちのく潮風トレイルを歩く利用者の増加や近年のアウトドアブームの流れとともにグランピング等の新たな公園利用の形が生まれています。



階上岳からの眺望



グランピング

(2) 北部地域における取組

《優先的・重点的な取組》

① コンテンツの磨き上げ

- ・利用者の滞在時間の長期化を図るため、漁火・灯台の燈火・日の出など夜や朝早くに提供する体験や厳しい冬の寒さなど土地の生活が体験できるガイドプログラムの造成を進めます。

② 快適性や利便性の向上

- ・質の高い自然体験ができる宿泊施設の再整備や誘致を検討します。

③ 自然と調和し地元還元される「持続可能な観光」

- ・持続可能な観光を推進するため、地域におけるサステナブルポリシー（自らが行う持続可能な取組のガイドライン）の作成を検討し、地域住民の意識醸成を図るとともに来訪者への協力も求めています。

4.3 中部地域（岩手県エリア）の取組

中部地域の概要および優先的・重点的に行うべき取組を以下に記載します。個別の取組は別紙1に示します。

(1) 中部地域の概要

【概要】

岩手県久慈市から宮城県気仙沼市までの地域は、岩手県の宮古湾付近を境に、北部は大規模な海成段丘が発達し、高さ50mから200mにも達する海食崖をはじめとする豪壮な海岸景観を有しています。南部はリアス海岸で、外洋に長く突き出た半島や岬と深く穏やかな湾入がくり返し展開し、変化に富んだ優美な海岸景観となっています。



北山崎

【利用】

利用については、公園区域に平行して走る三陸沿岸道路や国道45号および三陸鉄道等を介しての景観観賞や自然探勝が通年的に見られます。夏期には、海岸各所に整備された野営場でのキャンプ利用や海水浴利用が多いほか、海釣りやカヤックなどのマリンスポーツ、観光船やサップ船でのクルーズ、ガイドウォーク、地引き網、無人島体験等が行われています。また近年は、ウニによる磯焼けが進む藻場の再生や海の環境保全活動にダイビング観光ツアーを組み入れるなど、浜の生業と地域の宝を組み合わせ合わせた海業（うみぎょう）の新たな取組が進められています。



広田半島にオープンした
民営キャンプ場

日本ジオパークに認定された三陸ジオパークは、大地の隆起や浸食により生まれた海岸景勝地や鍾乳洞、金山（きんざん）等のサイト（見どころ）が点在し、観光や学習に活用されています。新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的にインバウンドは皆無となり、国内旅行の落ち込みもありましたが、みちのく潮風トレイルを歩く利用者の増加や近年のアウトドアブームの流れとともにワーケーション等の新たな公園利用の形が生まれています。



船越湾のシーカヤック



早春のワカメ収穫作業

(2) 中部地域における取組

《優先的・重点的な取組》

① 快適性や利便性の向上

- ・野営場や海水浴場のトイレ洋式化等の整備を進めます。
- ・きれいで安全で誰もが楽しめる優しい海水浴場を認証する、「国際環境認証:ブルーフラッグ」の取得を推進します。

② ウィズコロナ時代の多様なニーズに応じたサービスの提供

- ・アウトドアブームの中、キャンプスタイルの多様化に応じた新たなサービスの提供を検討します。

4.4 南部地域（宮城県エリア）の取組

南部地域の概要および優先的・重点的に行うべき取組を以下に記載します。個別の取組は別紙1に示します。

（1）南部地域の概要

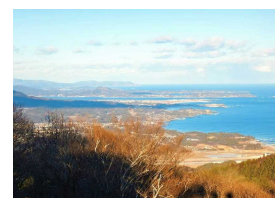
【概要】

宮城県気仙沼市から石巻市牡鹿半島までの地域は、荒波によって浸食された海食崖を有するリアス海岸および海上に浮かぶ多くの島しょからなる優美な海岸景観、および田東山（たつがねさん）や横山不動尊など寺社仏閣に護られた原生的な森林景観からなっています。本地域は、馬淵川まで広がる先新第三系の古い地層に覆われており、発達したリアス海岸は、宮古以南から続く海岸線と直行した断層が浸食され、沈水したことから成り立っている地形であり、北上山地の地形と一体となっています。

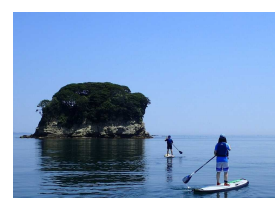
【利用】

利用については、仙台エリアからアクセスする三陸沿岸道路や国道45号およびJR仙石線等を介しての景観観賞や自然探勝が通年的に見られます。夏期には、海岸各所に整備された野営場でのキャンプ利用や海水浴利用が多いほか、海釣りやカヤックなどのマリンスポーツ、ロードバイク等によるツーリングが行われ、宮城オルレによる歩くコースも設定されています。また、新鮮な魚介類や海藻を用いた郷土料理等の味覚探訪を目的とした利用も多く見られます。

日本ジオパークに認定された三陸ジオパークは、大地の隆起や浸食により生まれた海岸景勝地や金山（きんざん）等のサイト（見どころ）が点在し、観光や学習に活用されています。新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的にインバウンドは皆無となり、国内旅行の落ち込みもありましたが、みちのく潮風トレイルを歩く利用者の増加や近年のアウトドアブームの流れとともにグランピング等の新たな公園利用の形が生まれています。



田東山からの展望



志津川湾のSUP



牡鹿半島のロードバイクツーリング



金華山

（2）南部地域における取組

《優先的・重点的な取組》

① コンテンツの磨き上げ

- ・金華山・気仙沼大島等の離島での滞在について、航路運行時間の調整による滞在時間の確保と、島内での体験コンテンツ等の造成を一体的に検討します。

② 快適性や利便性の向上、上質な自然景観や街なみの形成

- ・みちのく潮風トレイルのルートで歩道のない道路の区間が多いことから、関係機関で連携し安全対策を検討します。
- ・海岸および道路沿いの不法投棄ゴミが多いことから、関係者間による連携を密にし、マナー向上のための啓発やゴミ回収の方法等を検討します。

5. 効果検証

本プログラムにおける取組の実施状況や目標の達成状況については、以下のとおり、本協議会等において定期的な確認と評価および本プログラムの改訂を行います。

5.1 進捗確認と評価

(1) 取組の実施状況の確認

別紙1に掲げる取組の進捗状況について、管内の保護官事務所における情報収集のほか、年1回程度定期的に本協議会構成員へのヒアリング調査等を行い、その成果や課題についての共有を図るとともに必要な検討を行います。

(2) 目標の達成状況に係る評価

3.2に掲げる目標の達成状況について、3.4に記載する指標を用いたチェックと評価を行います。評価は原則として毎年度行います。

5.2 プログラムの改訂

5.1の結果を踏まえて、本プログラムの内容を検証し、必要な見直しや改訂を行います。また、最終年度にはプログラム全体の評価を行います。

別紙1 実施・検討する取組の一覧

NO	地域	取組の種別	取組概要	ハード / ソフト	優先 / 重点	実施主体
1	全域	エリアをつなぐストーリーの提案	トレイル（歩き）・サイクリング・鉄道・路線バス・BRT・離島連絡船等の多様な移動手段のコンテンツ（体験）化や組合せによる商品造成を図り、南北に長い公園の各地を訪ね歩く、スローな旅のスタイルを定着させていく。	ソフト		三陸復興国立公園満喫プロジェクト推進協議会の全構成員
2	全域	エリアをつなぐストーリーの提案	本公園の特徴的な魅力である海岸線の迫力や自然の豊かさを洋上から堪能し感動を深めるため、各地の遊覧観光船・漁船クルーズ・離島連絡船等を巡る旅のモデルコースやツールの造成を行う。	ソフト	○	環境省・国土交通省東北運輸局・県・市町村・DMO・観光協会・民間事業者等
3	全域	ストーリーを彩るコンテンツの磨き上げ	本公園のカラーコンテンツである「みちのく潮風トレイル」のブランディング化と国内外へ向けた広報戦略の検討を行う。	ソフト	○	環境省・みちのくトレイルクラブ等
4	全域	ストーリーを彩るコンテンツの磨き上げ	他地域に比べて優位性がある防災や震災伝承を継続させるとともに、復興後の地域の生業体験等を加えるなどの付加価値化を図る。	ソフト		国土交通省東北地方整備局・県・市町村・DMO・三陸ジオパーク推進協議会・観光協会・民間事業者等
5	全域	ストーリーを彩るコンテンツの磨き上げ	各種体験プログラム等のガイドの高齢化と後継者対策のため、新規人材の登用や養成講座の開催等を検討する。	ソフト		県・市町村・DMO・観光協会・みちのくトレイルクラブ・三陸ジオパーク推進協議会・民間事業者等
6	全域	ストーリーを彩るコンテンツの磨き上げ	既存の体験プログラム等の上質化を図るため、ガイド技術の向上や多言語化対応等の研修会や視察を検討する。	ソフト		県・市町村・DMO・観光協会・みちのくトレイルクラブ・三陸ジオパーク推進協議会・民間事業者等
7	全域	多様な連携による魅力づくりや誘客プロモーションの実施	宮城オルレ・みちのく潮風トレイル・三陸ジオパークの連携を強化し、それぞれの要素や特徴、各地の郷土芸能や食文化等の違いを楽しめるツアーやコースづくりを進める。	ソフト		環境省・県・市町村・DMO・観光協会・みちのくトレイルクラブ・三陸ジオパーク推進協議会・民間事業者等
8	全域	多様な連携による魅力づくりや誘客プロモーションの実施	公園エリア全体の観光情報を一元化したポータルサイト等の検討を進めるとともに、WEB・SNS 等での情報発信や関係者間で連携した誘客プロモーションを展開する。	ソフト		環境省・県・市町村・DMO・観光協会・三陸復興国立公園協会
9	全域	快適性や利便性の向上	案内板・解説板・パンフレット等の多言語化を図るとともに、QR コードやアプリケーションの導入を検討する。	ハード・ソフト両方		環境省・県・市町村・DMO・観光協会・三陸復興国立公園協会
10	全域	快適性や利便性の向上	展望地等における眺望確保のため、関係者間による現状把握や現行制度を踏まえたルールづくりによる通景改善計画の策定を検討する。	ハード・ソフト両方	○	環境省・林野庁東北森林管理局・県・市町村
11	全域	快適性や利便性の向上	旅行者の利便性を考慮した2次交通対策と、乗り継ぎ情報を整理した一元的な発信を検討する。	ソフト		県・市町・DMO・交通事業者等
12	全域	快適性や利便性の向上	海外からのハイカー等に対応した、手荷物回送システムの構築を進める。	ハード・ソフト両方		みちのくトレイルクラブ・民間事業者等
13	全域	ウィズコロナ時代の多様なニーズに応じたサービスの提供	体験コンテンツや宿泊等について、支払い時のキャッシュレス化やオンライン決済システムの構築等を検討する。	ハード・ソフト両方		県・市町村・DMO・民間事業者等
14	全域	ウィズコロナ時代の多様なニーズに応じたサービスの提供	主要な利用拠点において、Wi-Fi 環境の整備を進めるとともに、使用可能エリアの周知を図る。	ハード・ソフト両方		環境省・県・市町村・民間事業者等
15	全域	自然と調和し地元に還元される「持続可能な観光」の実現	自然環境の保全や美化整備活動等の体験プログラム化やイベント化を進め、地元住民・公園利用者・民間企業等への普及啓発を図る。	ソフト		環境省・県・市町村・DMO・みちのくトレイルクラブ・三陸ジオパーク推進協議会・民間事業者等
16	全域	自然と調和し地元に還元される「持続可能な観光」の実現	利用者からの売上金や利用料等の一部を、自然環境の保全や施設維持資金等に還元できる仕組みづくりを検討する。	ハード・ソフト両方		環境省・県・市町村・DMO・みちのくトレイルクラブ・民間事業者等

別紙1 実施・検討する取組の一覧

NO	地域	取組の種別	取組概要	ハード / ソフト	優先 / 重点	実施主体
17	北部	ストーリーを彩るコンテンツの磨き上げ	利用者の滞在時間の長期化を図るため、漁火・灯台の燈火・日の出など夜や朝早くに提供する体験や厳しい冬の寒さなど土地の生活が体験できるガイドプログラムの造成を進める。	ソフト	○	青森県・市町・DMO・民間事業者等
18	北部	ストーリーを彩るコンテンツの磨き上げ	地元の生業を体験プログラム化したコンテンツの造成や調整役となる、コーディネーター人材の育成を図る。	ソフト		青森県・市町・DMO・民間事業者等
19	北部	ストーリーを彩るコンテンツの磨き上げ	みちのく潮風トレイルの比較的平坦でコースバリエーションが豊かなルートの特徴を活かし、トレイル初心者へのアプローチを図る。	ソフト		環境省・みちのくトレイルクラブ・市町・DMO・民間事業者等
20	北部	多様な連携による魅力づくりや誘客プロモーションの実施	観光関係者の各々が取得した旅行者情報やデータについて、地域での共有化を図る。	ソフト		三陸復興国立公園満喫プロジェクト推進協議会の全構成員・民間事業者等
21	北部	快適性や利便性の向上	種差海岸キャンプ場利用者の利便性向上に向けた環境整備を検討する。	ソフト		環境省・八戸市
22	北部	快適性や利便性の向上	利用者の誰もが上質な自然体験ができるよう、遊歩道やトイレ等のユニバーサルデザイン化整備を検討する。	ハード・ソフト両方		環境省・青森県・市町
23	北部	快適性や利便性の向上	国立公園エリアの自然風景と周辺エリアの産業や生業の風景が調和された景観の保全を図る。	ハード・ソフト両方		環境省・青森県・市町
24	北部	快適性や利便性の向上	全てに利便性を求めるのではなく、不便だからこそ生まれる魅力を伝え、不便さを上回る感動づくりを進めて行く。	ソフト		青森県・市町・DMO・民間事業者等
25	北部	快適性や利便性の向上	質の高い自然体験ができる宿泊施設の再整備や誘致を検討する。	ハード・ソフト両方	○	環境省・青森県・市町・DMO・民間事業者等
26	北部	ウィズコロナ時代の多様なニーズに応じたサービスの提供	利用者の滞在化を図るため、公園内のワークショップスポットをとりまとめた情報の発信を検討する。	ソフト		青森県・市町・DMO・民間事業者等
27	北部	ウィズコロナ時代の多様なニーズに応じたサービスの提供	インバウンドや富裕層をターゲットとした、八戸・階上エリアへのニーズ調査を検討する。	ソフト		青森県・市町・DMO
28	北部	自然と調和し地元で還元される「持続可能な観光」の実現	国立公園利用のルール周知やマナー向上につながる啓発活動や情報発信を進める。	ソフト		環境省・青森県・市町
29	北部	自然と調和し地元で還元される「持続可能な観光」の実現	ガイド技術の良質化を進め、それに見合う適正な料金を徴収し、ガイド業の収入確保を図る。	ソフト		市町・民間事業者等
30	北部	自然と調和し地元で還元される「持続可能な観光」の実現	地産地消の取組を拡大し、利用者へ取組の「見える化」を進める。	ソフト		青森県・市町・民間事業者等
31	北部	自然と調和し地元で還元される「持続可能な観光」の実現	持続可能な観光を推進するため、地域におけるサステナブルポリシー（自らが行う持続可能な取組のガイドライン）の作成を検討し、地域住民の意識醸成を図るとともに来訪者への協力も求めていく。	ソフト	○	環境省・市町・DMO・民間事業者等
32	中部	ストーリーを彩るコンテンツの磨き上げ	料理や食材についてのストーリーや体験化等、三陸オリジナルの食のブランド化を検討する。	ソフト		岩手県・市町村・DMO・民間事業者等
33	中部	ストーリーを彩るコンテンツの磨き上げ	漁船クルーズや漁業体験等の荒天時代代替えコンテンツの造成や受入れ施設の整備について検討する。	ハード・ソフト両方		岩手県・市町村・DMO・民間事業者等
34	中部	ストーリーを彩るコンテンツの磨き上げ	海水浴場の開設期間の見直しや海での楽しみ方の多様化を図り、利用客の増加につなげる。	ハード・ソフト両方		市町村・民間事業者等
35	中部	多様な連携による魅力づくりや誘客プロモーションの実施	旅行者の滞在日数を延ばすため、市町村間で連携したモデルコースや宿泊プランの検討を行う。	ソフト		市町村・DMO・民間事業者等
36	中部	多様な連携による魅力づくりや誘客プロモーションの実施	ストーリー性のあるコンテンツやツアーの造成、旅行者情報の共有、プロモーション等において民間団体や交通事業者の連携を検討する。	ソフト		DMO・交通事業者・民間事業者等

別紙1 実施・検討する取組の一覧

NO	地域	取組の種別	取組概要	ハード / ソフト	優先 / 重点	実施主体
37	中部	快適性や利便性の向上	みちのく潮風トレイルの道迷い箇所への道標整備を行う。	ハード		環境省
38	中部	快適性や利便性の向上	2次交通や周遊観光の手段としての利用が有効な、レンタルe-バイクやレンタサイクル等の乗り捨て回収システムや鉄道車両乗入れについて検討する。	ソフト		市町村・DMO・民間事業者等
39	中部	快適性や利便性の向上	誰もが上質な旅を楽しめるよう、駅や観光施設等のユニバーサルデザイン化整備を検討する。	ハード		環境省・岩手県・市町村・民間事業者等
40	中部	快適性や利便性の向上	海岸地の遊歩道や展望所等での安全を確保するため、老朽化した安全柵や階段等の修繕整備を行う。	ハード		環境省・岩手県・市町村
41	中部	快適性や利便性の向上	野営場や海水浴場のトイレ洋式化等の整備を進める。	ハード	○	環境省・岩手県・市町村
42	中部	快適性や利便性の向上	ビジターセンター等の古い展示物や映像について、多言語化を含めた更新を行う。	ハード・ソフト両方		環境省・岩手県
43	中部	快適性や利便性の向上	きれいで安全で誰もが楽しめる優しい海水浴場を認証する、「国際環境認証:ブルーフラッグ」の取得を推進する。	ハード・ソフト両方	○	環境省・岩手県・市町村・民間事業者等
44	中部	ウィズコロナ時代の多様なニーズに応じたサービスの提供	アウトドアブームの中、キャンプスタイルの多様化に応じた新たなサービスの提供を検討する。	ハード・ソフト両方	○	市町村・DMO・民間事業者等
45	中部	ウィズコロナ時代の多様なニーズに応じたサービスの提供	各地域で提供が可能なワーケーションのスタイルを考慮し、提供プログラム造成や必要な施設の整備を検討する。	ハード・ソフト両方		市町村・DMO・民間事業者等
46	中部	自然と調和し地元に還元される「持続可能な観光」の実現	野生の鹿が増加していること等を踏まえ、自然との共生について考える、夜の観察ツアーやジビエ料理を体験する新たなコンテンツの造成を検討する。	ソフト		環境省・岩手県・市町村・DMO・民間事業者等
47	中部	自然と調和し地元に還元される「持続可能な観光」の実現	自然体験プログラム等のガイドや郷土芸能の提供では、適正な料金を徴収し、生業や伝承の資金として還元していく。	ソフト		市町村・民間事業者等
48	中部	自然と調和し地元に還元される「持続可能な観光」の実現	観光客の利便性の高い周遊手段等の目的で、環境にやさしいグリーンスローモビリティの導入を検討する。	ハード・ソフト両方		市町村・交通事業者等
49	南部	ストーリーを彩るコンテンツの磨き上げ	離島航路や遊覧船航路など、洋上から見る魅力のPRを強化するとともに、船中での付加価値や欠航時の代替えコンテンツの整備を検討する。	ソフト		宮城県・市町・DMO・交通事業者等
50	南部	ストーリーを彩るコンテンツの磨き上げ	三陸復興国立公園の最南端にあたる、網地島のドワメキ崎の活用について検討する。	ハード・ソフト両方		宮城県・石巻市・民間事業者等
51	南部	ストーリーを彩るコンテンツの磨き上げ	旅行者の宿泊化につなげるため、星空・野生動物等の観察や漁火・夜景見学ツアー等、夜間のコンテンツの造成を検討する。	ソフト		宮城県・市町・DMO・民間事業者等
52	南部	ストーリーを彩るコンテンツの磨き上げ	金華山・気仙沼大島等の離島での滞在について、航路運行時間の調整による滞在時間の確保と、島内での体験コンテンツ等の造成を一体的に検討する。	ソフト	○	宮城県・市町・DMO・みちのくトレイルクラブ・交通事業者等
53	南部	ストーリーを彩るコンテンツの磨き上げ	漁業や農泊などの生業体験を促進するため、本業とガイド業との調整役となる、コーディネーター人材の育成を図る。	ソフト		宮城県・市町・DMO・民間事業者等
54	南部	ストーリーを彩るコンテンツの磨き上げ	ローカルな場所にも旅行者が訪れるようになることから、地域住民への理解を広め、旅行者と住民との交流ができる環境づくりを進める。	ソフト		宮城県・市町・DMO・民間事業者等
55	南部	多様な連携による魅力づくりや誘客プロモーションの実施	公園内の日の出観望や野営・釣りポイント、みちのく潮風トレイルの離島巡りコース、船で巡るコース等、特定の目的をもった層に働きかけるモデルコースの造成やパンフレット作成等の連携を図る。	ソフト		環境省・市町・DMO・みちのくトレイルクラブ・交通事業者等

別紙1 実施・検討する取組の一覧

NO	地域	取組の種別	取組概要	ハード / ソフト	優先 / 重点	実施主体
56	南部	多様な連携による魅力づくりや誘客プロモーションの実施	地元 YouTuber 等とコラボした動画配信等、SNS を活用した情報発信を検討する。	ソフト		宮城県・市町・DMO・民間事業者等
57	南部	多様な連携による魅力づくりや誘客プロモーションの実施	旅行者の利便性向上のため、交通事業者間の連携に加え、観光事業者との連携についても検討を進める。	ソフト		DMO・交通事業者・民間事業者等
58	南部	多様な連携による魅力づくりや誘客プロモーションの実施	宮城オルレやみちのく潮風トレイルにおいて、地元での理解と交流促進を図るため、住民団体や学校教育と連携し、ルートマップ作りやルートの保全活動を進める。	ソフト		環境省・宮城県・市町・みちのくトレイルクラブ
59	南部	多様な連携による魅力づくりや誘客プロモーションの実施	地域の旅行者情報やデータの共有化など、各地 DMO 間の連携について検討する。	ソフト		DMO
60	南部	多様な連携による魅力づくりや誘客プロモーションの実施	公園やトレイル利用上の各種情報（動物等の注意喚起や不法投棄等の啓発、トレイルのサポートセンター関連情報等）の発信を継続する。	ソフト		市町・みちのくトレイルクラブ
61	南部	快適性や利便性の向上	松くい虫による被害木について、国・県・市町が連携し、観光拠点とその周辺の危険箇所から優先に処理を進める。	ハード・ソフト両方		環境省・林野庁東北森林管理局・宮城県・市町
62	南部	快適性や利便性の向上	みちのく潮風トレイルのルートで歩道のない道路の区間が多いことから、関係機関で連携し安全対策を検討する。	ハード・ソフト両方	○	環境省・国交省・宮城県・市町・みちのくトレイルクラブ
63	南部	快適性や利便性の向上	釣り客等のマナー向上のための啓発を進める。	ソフト		宮城県・市町
64	南部	快適性や利便性の向上	海岸および道路沿いの不法投棄ゴミが多いことから、関係者間による連携を密にし、マナー向上のための啓発やゴミ回収の方法等を検討する。	ソフト	○	宮城県・市町・DMO・みちのくトレイルクラブ・民間事業者等
65	南部	快適性や利便性の向上	海岸地の遊歩道や展望所等において、利用者の安全を確保するため、老朽化した安全柵や階段等の修繕整備を行う。	ソフト		環境省・宮城県・市町
66	南部	快適性や利便性の向上	きれいで安全で誰もが楽しめる優しい海水浴場を認証する、「国際環境認証:ブルーフラッグ」の取得を推進する。	ハード・ソフト両方		環境省・宮城県・市町・民間事業者等
67	南部	ウィズコロナ時代の多様なニーズに応じたサービスの提供	アウトドアブームの中、キャンプスタイルの多様化に応じた新たなサービスの提供を検討する。	ハード・ソフト両方		市町・DMO・民間事業者等
68	南部	自然と調和し地元還元される「持続可能な観光」の実現	公園関係主体がSDGsの取組を推進するとともに、取組内容について積極的な情報発信を行う。	ソフト		環境省・宮城県・市町・DMO・民間事業者等
69	南部	自然と調和し地元還元される「持続可能な観光」の実現	旅行者と住民との交流ができる機会を広め、地域の経済や文化継承に旅行者や移住者が役立てる環境づくりを進める。	ソフト		宮城県・市町・DMO・民間事業者等
70	南部	自然と調和し地元還元される「持続可能な観光」の実現	三陸の「志津川湾」と内陸部にある「伊豆沼・内沼」、「蕪栗沼・周辺水田」、「化女沼」の3つのラムサール条約湿地との連携を進め、水鳥をはじめ様々な生きものがすむ貴重な環境の保全等の普及啓発や住民と利用者の交流等を促す。	ソフト		環境省・宮城県・市町村・民間事業者等

別紙 2

三陸復興国立公園満喫プロジェクト推進協議会 設置要綱

(設置)

第1条 「三陸復興国立公園満喫プロジェクト推進協議会」(以下「協議会」という。)を設置する。

(目的)

第2条 協議会は、国立公園の美しい自然を活かし、より上質な体験を提供することにより、世界水準の「ナショナルパーク」へと革新していくことを目指し、三陸復興国立公園において利用を推進するための具体的なプログラム(以下、「三陸復興国立公園ステップアッププログラム」という。)を策定し、関係機関の相互の連携を図りながら実施していくことを目的とする。

(所掌事項)

第3条 協議会は、次の事項について所掌する。

- (1) 三陸復興国立公園における利用の推進に関する事項
- (2) 三陸復興国立公園ステップアッププログラムの策定及び実施に関する事項
- (3) その他、第2条の目的を達成するために必要と認められる事項

(組織)

第4条 協議会は、別表に記載する関係機関等をもって構成する。

- 2 協議会には会長を置き、会長には環境省東北地方環境事務所長があたる。
- 3 会長は、協議会の会務を統括する。
- 4 会長は、必要と認める者を構成員として指名することができる。
- 5 会長は、必要に応じて個別課題等に対応する部会等を設置することができる。
- 6 構成員が退会する場合は、協議会事務局に退会する旨を申し出ることとする。

(会議)

第5条 協議会は、会長が招集する。

- 2 協議会の議事は、会長が進行する。
- 3 協議会には、必要に応じてアドバイザーを招集することができる。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

(事務局)

第7条 協議会の事務局は、環境省東北地方環境事務所宮古自然保護官事務所に置く。

- 2 協議会の事務局は、下記の関係機関等から構成するものとする。
東北地方環境事務所
三陸復興国立公園協会

(付則) この要綱は、令和4年11月25日から施行する。

別表（構成員リスト）

	機関名	役職
国	環境省東北地方環境事務所	所長
	国土交通省東北地方整備局 企画部	部長
	国土交通省東北運輸局 観光部	部長
	国土交通省東北運輸局 海事振興部	部長
	経済産業省東北経済産業局 産業部	部長
	林野庁東北森林管理局 計画保全部	部長
県	青森県国際観光戦略局 観光企画課	課長
	青森県環境生活部 自然保護課	課長
	岩手県商工労働観光部 観光・プロモーション室	室長
	岩手県環境生活部 自然保護課	総括課長
	宮城県経済商工観光部 観光政策課	参事兼課長
	宮城県環境生活部 自然保護課	課長
市町村	八戸市	市長
	階上町	町長
	久慈市	市長
	野田村	村長
	普代村	村長
	田野畑村	村長
	岩泉町	町長
	宮古市	市長
	山田町	町長
	大槌町	町長
	釜石市	市長
	大船渡市	市長
	陸前高田市	市長
	気仙沼市	市長
	南三陸町	町長
	登米市	市長
	女川町	町長
石巻市	市長	
観光関係団体	公益社団法人青森県観光国際交流機構	専務理事
	公益社団法人岩手県観光協会	理事長
	公益社団法人宮城県観光連盟	業務執行理事
	一般財団法人 VISIT はちのへ	理事長
	公益財団法人さんりく基金 DMO 事業部（三陸 DMO センター）	三陸 DMO センター長
	一般社団法人宮古観光文化交流協会	会長
	株式会社かまいし DMC	代表取締役
	一般社団法人気仙沼地域戦略	理事長
	一般社団法人石巻圏観光推進機構	代表理事
	三陸復興国立公園協会	会長
	三陸ジオパーク推進協議会	会長
	NPO 法人みちのくトレイルクラブ	代表理事
交通事業者	東日本旅客鉄道株式会社 東北本部	営業部長
	東日本旅客鉄道株式会社 盛岡支社	営業部長
	三陸鉄道株式会社	代表取締役社長
	岩手県北自動車株式会社	専務執行役員営業部長
	岩手県交通株式会社	代表取締役会長兼社長
	ジェイアールバス東北株式会社	代表取締役社長
	宮城交通株式会社	営業部長
	株式会社ミヤコーバス	代表取締役社長執行役員

**国立公園満喫プロジェクト
三陸復興国立公園ステップアッププログラム 2025**

策定日：2023年（令和5年）12月25日

発行：三陸復興国立公園満喫プロジェクト推進協議会

事務局：環境省 東北地方環境事務所 国立公園課

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3丁目2-23 TEL 022-722-2874

三陸復興国立公園協会 事務局（宮古市観光課内）

〒027-8501 岩手県宮古市宮町1丁目1-30 TEL 0193-68-9091

写真提供：一般財団法人 VISIT はちのへ、NPO 法人体験村・たのはたネットワーク、
おきなくら EELs、一般社団法人石巻圏観光推進機構（順不同）